

Abstract

シエラレオネのチーフダム警察改革にみる国家の形
——治安部門改革の変遷に着目して（1996–2015年）

古澤 嘉朗（広島市立大学准教授）

2002年3月に国内紛争が終結したシエラレオネは成功例と語られることが多い。本論文では、成功したか否かではなく、現状を整理・理解するところから始め、シエラレオネの経験から何を学ぶことができるのかについて考えたい。第1に、1996年から2015年に至るシエラレオネの治安部門改革（SSR）を概観し、その特徴を整理する。第2に、「人口の70%が司法制度にアクセスできない状況」を踏まえた、2008年以降のSSRのシフトに注目する。このシフトにより警察などの政府機関だけでなく、人々により近い存在である慣習組織にも焦点をあてた改革が実施された。本論文では特にチーフダム警察に注目する。最後に、平和構築やSSRにとってチーフダム警察改革が何を意味するのかについて考えてみたい。それは1961年に独立を果たし、2002年に国内紛争を乗り越えたシエラレオネという主権国家が、今後どのような道を歩むことになるのかということである。

『国際安全保障』第45号第2巻（2017年9月）75–90ページ。